

# のりしろ 大学横丁

**のりしろ 大学横丁**

この提案は、農村集落の「集い」に着目した「助け合うコミュニティ」形成に関する研究です。主な構成要素は以下の通りです。

- 1. はじめに**: 豊かな農村社会と、豊かな大学社会を融合するための構造を示す。
- 2. 研究の背景**: 農村社会の「集い」が、豊かな地域社会を育む力があることを示す。
- 3. 研究の方法**: 地域社会の調査、文献研究、実証的研究などを通じて、地域社会の「集い」を分析する。
- 4. 研究の内容**: 地域社会の「集い」を実現するための具体的な策定を示す。
- 5. 研究の結果**: 地域社会の「集い」が実現された結果を示す。
- 6. 研究の結論**: 地域社会の「集い」が実現された結果を示す。
- 7. おわりに**: 地域社会の「集い」が実現された結果を示す。

遠田 拓也  
(えんた たくや)

日本大学  
生産工学部  
建築工学科



人がただそれ違うだけの街は、故郷にはならない。農村社会では、人びとが集うことでの自然に「助け合うコミュニティ」がつくれられてきた。そんな農村型の「集い」のしくみを都市的な環境の中で実現できないだろうか。南北の街を分断する隣り合う東西二つの大学が、街の「のりしろ」となり、学生と地域の人びとが自然に集う。「のりしろ」は、人びとのサークル活動で賑わい、大学の機能を巻き込みながら、南の商店街と緊急避難場所である北の小学校へつながっていく。自然災害が懸念される今、「のりしろ 大学横丁」の設計を通して、豊かな地域社会と新しい街のあり方を提案したい。基本的な考え方は、論文『『農村集落の「集い」にみる「助け合うコミュニティ」形成に関する研究』(学内卒業論文審査会にて最優秀賞受賞)で検討した。

## 講評

日本大学と東邦大学を分かつ明確な境界線を曖昧な境界域へと作り替える、その境界域を「のりしろ」と作者は呼ぶ、面白い着想の作品であり、さて何と何を糊づけるのであろうかと興味を持たせる、作品への導入も巧みです。

作者は、大学と大学、学生と地域住民、そして東西に分かたれた地域住民を結びつけようとし、その解決法は研究成果を元にした「集う」ことの大切さにあると解き、自然発生的に強制的に集う場となる装置を1本の動線に散りばめた素晴らしい作品です。また、災害における大学の地域貢献、防災拠点へのスムーズな動線の確保をも視野に入れ、民による相互協力の提案も行ったところも本計画の良さです。

大きなボリュームで計画された一時避難所ともなる大学施設、「横町」と名付けるに相応しいファサード、プラン、ボリュームを検討し計画されると尚良かったと筆者には感じられました。

(審査委員：海老原 智子)

